様式7（市教委報告用）

5三鷹四小第115号
令和6年3月8日

三鷹市教育委員会　様

校長　佐藤　勇人
（公印省略）

令和5年度　連雀学園　三鷹市立第四小学校　　学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価　※学園内で統一記述

今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること	*来年度の重点課題を解決するための改善方策*
②重点課題 ●連雀学園の子どもたちに育てたい力を、学園、保護者、学校で共有し、教職員の当事者意識を高めるとともに、CS委員や地域、家庭と協働する。	③　改善策 ◎連雀学園構成メンバーによる熟議を行い、学園・学校の教育実践を振り返り、目標や取り組みなどの重点化を探り、新たな指針を作成する。

学校評価　※学校ごとに記述

今年度明らかになった課題　※「第2回学校関係者評価」を経て記述	*来年度の改善方策　※「第2回学校関係者評価」を経て記述*
●学園の方針と本校の特色を踏まえて、四小の子どもたちに育てたい力を、改めて学校、保護者で共有する。特に、異動して3年以内の教員が多数を占めているので、学校経営に関わる内容を学校組織内部で理解を深める。 **●教職員一人一人が、目的と手段を明確に意識して校務に取り組み、当事者意識をもって、保護者、地域と協働していく。**	**◎学園・学校の経営方針や教育課程など、目的の理解と前年度までの経緯などを理解できるよう、校内研修の場を設定する。同様に、振り返りの場を設定して、目的に対して正対した活動になるよう、教職員一人一人が考えられるようにする。** **◎校内組織と分掌の内容を見直し、校務の平均化に努めるとともに、一人一役を与える。併せて、効果的に面談を実施し、教職員が自らの働きに満足感をもって自ら役割を果たせるようにする。**

学園評価

取組項目	*今年度の重点目標*	*成果*	*課題と改善方策*
コミュニティ・スクールの運営	・スクール・コミュニティの創造に係る内容 ・コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等）	○3部制への取組みは、各校進んでおり、施設利用を一定程度開始することができている。 ○CS委員会での熟議を通して、子どもたちに育てたい力を話し合い、必要な取組みを具体的に考えることができた。 ○学園ニュース「ジョイナス」の計画的な発行と連雀文化祭「笑顔満祭」の実施を実現することができた。	●施設利用する人数が適正となるよう、支援員を確保する。新たなプログラムの開発も視野に入れていく。 ●子どもたちに育てたい力は継続して、話し合っていく。連雀文化祭は、継続するための課題と対応を明らかにしていくことが必要である。 ◎それぞれの施設のニーズと、それに見合う支援員数やプログラム等を明確にするようにして、運営及び評価・改善をしていく。 ◎CS委員会で大切にしてきた熟議の継続やおとな熟議の実施により、学園の教育実践の改善を図る。文化祭等の取組みについては、早期に計画・実施できるようにする。
小・中一貫教育校としての教育活動	・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等） ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動	○学園の交流活動を予定通りに実施し、児童・生徒に満足感や学園への所属感を実感させることができた。 ○学園研究は、連雀学園一貫カリキュラムに則り、学園研究テーマの実現へ向けて、計画どおり実施することができた。 ○乗り入れ授業は、ほぼ予定通り実施することができている。	●交流行事の内容については、4校の状況に応じて、常に見直しを図っていく。また、小小の交流も計画的に実施していく。 ◎今年度実施する母校訪問形式のたてわり活動や小小の交流行事について、計画的に実施できるよう、推進委員会で早めの提案をしていくようにする。
（知）確かな学力	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進　・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上　・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進　・主体的・対話的で深い学びの推進　・GIGAスクール構想　・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等	○学園の研究テーマ「知的コミュニケーションを活かした学習指導の工夫」に向けて、4校各々が授業改善に向けた取組みを推進できた。ICT機器の活用や「考える授業」の実現の視点からも、一定の成果が見られた。 ○算数習熟度別指導や「地域未来塾」など、基幹学力の定着・向上を目指した取組みも、計画的に実施できた。	●到達目標に達していない児童・生徒や学力調査等に肯定的でない児童・生徒への理解と指導の充実を継続して行っていく。 ●ICT機器の活用については、ほぼできてはいるが、積極性については、まだ個人差が見られる部分もある。 ◎全国学力学習状況調査や市の学力テストを活用して、全体の傾向と個々の様子を把握し、引き続き授業改善に努める。 ◎ICT機器の活用の好事例を、学園研究や各校の研究・研修のなかで共有し、積極性を高めていく。
（徳）豊かな人間性	・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・情報モラル教育 ・生活指導等	○学園共通でHyper-QUを導入して学級づくりに活かし、よりよい人間関係づくりを進めることができた。 ○小学校各校通常の学級における児童への支援策について検討し、個に応じた授業展開を実施している。	●Hyper-QUの導入により、児童・生徒の状況の把握はできたが、学級集団作りや人間関係づくりに生かしていく工夫については、今後も各校で推進したり、学園で共有したりする必要がある。 ●通級拠点校との連携により、引き続き支援策の検討や個に応じた授業展開に取り組んでいく。 ◎学園生活指導部や研究全体会での研修、学園研究での実践の共有を深めていく。 ◎学園（小学校）合同でのプラン研修等、実践につながる研修の実施。
（体）健康・体力	・基本的生活習慣の確立 ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等	○体力調査の結果からは、三鷹市の平均をほぼ上回り、改善が見られた。授業改善の成果が見られている。また、体を動かしたり、運動したりすることが好きな児童・生徒の数も一定数見られる。 ○調査への回答から、児童・生徒が健康な生活や体力づくりに対しての意識をもっていることも確認できた。	●児童・生徒の運動に対する意欲や関心をさらに高めたり、実際に運動する機会を増やしたりする。 ●健康な生活と体力向上への意識を家庭と連携して高めていく。 ◎学園合同あるいは連携した運動の強化週間や意識付けを高める取り組みを再開していく。 ◎体力調査の結果を活かした授業改善の継続と、家庭への周知の方法の工夫をしていく。
特色ある教育活動	・特色あるキャリアアントレプレナーシップ教育 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成 （伝統や文化に関する教育、主権者に関する教育、法に関する教育など）	○キャリア・アントレプレナーシップ教育は、各校の特色を生かして展開することができた。 ○児童会・生徒会活動の充実や熟議との連携、学校での意見集約など、児童・生徒の意見を活かした取組みが、各校で推進された。児童・生徒の満足度も高かった。デジタル・シティズンシップ教育を反映させ、連雀学園でのタブレットルールの見直しも始められている。	●児童・生徒の意見を活かした児童・生徒会の活動を継続していく。また、児童・生徒会に属さない児童・生徒の意欲の向上。 ◎各校での意見集約を引き続き行うこと、児童・生徒会での意見交換や学園での情報共有と、連携を強化する。また、CS委員会など、地域諸団体の主催する活動への参加を促す。
教育の質の向上を目指した学校の働き方	・退校目標時間、ノー残業　デー等の設定 ・教員のタイムマネジメント力の向上 ・人財の効果的活用 ・地域行事等への参加の工夫等 ・部活動の適正化	○退校目標時間、ノー残業デーの設定等、各校実施し、超過勤務時間の減少に努め、一定の成果を見ることはできている。 ○専門スタッフの配置とその活用、校務支援システムの活用が、「当たり前」になり、効率的な会議運営につなっがている。	●在校時間や超過勤務の時間には、ばらつきがある。時季による増減があったり、個々のもつ業務の内容に左右されたりする。 ◎校務の均等化を図るとともに、繁忙期を見据えて業務の先取りをするなど、タイムマネジメントを意識した働き方に改善させ、児童・生徒と向き合う時間を確保するようにしていく。

学校評価

取組項目	*学校の経営目標（中期目標）*	*今年度の重点目標（単年度目標）*	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 取組	第1回評価 成果	第2回評価 取組	第2回評価 成果	自己評価（第2回）	学校関係者評価（第2回）
人間力・社会力の育成	○コミュニティ・スクール委員会や連雀ジョイナスについて、管理職のサポートの下、会長・副会長を中心に運営できるようにする。	①小学校での教室開放の実施、中学校での地域の方による部活動の試行。	・夢育支援ネットワークと連携し、教室開放を年度内に実施する。	未	未	1	4	夏季休業中に、閉庁日を除く平日20日間の教室開放を実施した。利用人数は、ほぼすべての日に2桁になった。予算がないために、2学期は、暑さや天候により校庭開放が行えない日に教室開放に切り替えて実施。利用者の満足度は、児童96.0%、保護者89.2%であった。次年度は、予算増額が見込まれるが、支援員の確保が大きな課題である。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件HEHE ・次年度以降も同様な数値での利用を見込んで早急の人員確保の対策を行うべき
	o	②連雀学びのスタンダードの改訂 ③連雀ジョイナスの活動を計画的に実施する。	②CS、CS委員と教員や保護者、児童会・生徒会などの熟議を進める。 ③年度当初に連雀ジョイナスの計画を立て、すすめる。	未	未	4	1	CS委員対象アンケートにおける回答数が16。そのうち「満足している」「やや満足している」という肯定的な回答は10、「どちらともいえない」のは2であった。満足していないという回答の理由は、思うように関われなかった、他校のことについてわからないとなっており、CS委員の役割についてもっと理解できるように、委員会での説明や熟議をより充実させていきたい。	
学園・学校運営	○コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を推進し、9年間の義務教育の学びと15歳の姿に責任をもつ学校	①小・小の交流、小・中の交流活動を実施する。	①4・5年生の選択交流学習、6年生の一中体験、1年生から中学校3年生までの連雀たてわり活動を実施する。	4	未	4	4	4・5年生の選択交流学習、6年生の一中体験の感想ではほぼ100%の 児童が肯定的な振り返りを行っている。連雀たてわり活動は、3月に実施 予定。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件
	q	a5	c1						
小・中一貫教育校としての教育活動	○問題解決的な学習、知的コミュニケーションを活かした学びによる思考力・判断力・表現力の育成	①問題解決的な学習、知的コミュニケーションを活用した学習の工夫の日常的な推進による、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の実現	②学園研究・校内研究の指導案、週の指導計画、観察授業を通して、継続的に指導していく。	4	未	3	2	学習内容や発達段階に応じた授業改善には取り組めている。市の学力調査による授業改善の指標は、どの学年も市の平均を上回っている。国の学力調査の結果は、国語・算数ともに市の平均を上回っているが、到達度60%以下の児童が約23%。当然、平均値周辺に位置する児童が多いので、更なる授業改善と個別指導の充実を図っていく必要がある。	妥当：20件、妥当ではない：1件、無回答：3件 ・到達度が下回る児童の学力向上も必要だが、下回るには何か別の理由なども想定できるので、家庭環境なども影響した対策を願いたい。学力向上はよいが家庭によっては負担感に感じることもあることも念頭に置くべきではないか
	○「できない、わからない」をそのままにしない指導の推進による全児童の学力向上	②補充的な学習が必要な児童への学力の補償	②「四小地域未来塾」の実施と担任による「学力補充」の取組みを確実に実施する。	4	未	4	2	3～6年生の正答率はそれぞれ82（+2）・84（+5）・82（±0）・75（+1）％で、高止まり感があり、成果の評価は2となる。運営に関しては、副校長による事務仕事はあるものの、地域協力者の確保により、3部制の第2部としての形が整って実施できている。支援員の確保は、変わらずの課題である。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件
児童・生徒の学力・健全育成	○学級・学校の指示的風土、学級力の向上	②教師の児童理解と児童自身の目標設定による「自分が好き、学校が好き、先生が好き」な活力ある児童の育成	②ハイパーQU及び学級力向上アンケートの活用、傾聴により児童理解、学級づくりを推進する。日常的に「あいさつ」、靴箱の整頓「す～ぴた」、「返事」を全校体制で指導していく。	4	未	4	4	各種アンケートを活用した児童理解と学級・学年経営、日常的な全校統一した生活指導を実施できている。「学校が楽しい」への肯定的な回答は、95%を超えている。靴箱の整頓は、児童にも浸透できている。この2年で教員がかなり入れ替わっているので、さらに共通理解を深めたい。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件 ・靴箱の整頓「す～ぴた」が興味深いです。児童の時期に身に着ける習慣はからだにしみつくので大切だと思います。ほかの学校にも広めたい試みだと思います。「あいさつ」「返事」に意識を持っていくことも当たり前のようですが、とても大切だと思います。
	○人権感覚の醸成、道徳教育の充実、教育支援の充実	②教育支援研修の内容の充実、校内研究の成果を生かす道徳教育の充実、教師自身の人権感覚の育成	②校内研究の内容や日常の実践を共有して道徳教育を充実させる。悉皆研修の他に教育支援研修を行い、教師の児童理解の力を向上させる。毎週人権チェックを行い、教師自身の人権感覚を養う。	4	未	4	4	支援研修は昨年度同様2回行い、理論と実践の両面での理解を深めた。人権チェックシートは、毎週提出させているが、形骸化しないように注意して声をかけていくようにする。学園・学校評価の肯定的評価は、児童96.5%、保護者95.6%となり、高い評価をいただいていると考える。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件 ・高評価に胡坐をかかずに初心忘れず小さなことにも配慮できるよう努めてほしい。
	○体育指導の充実と日常的な体力づくりによる体力向上と運動への意識づくり	②体育科の授業の指導法の改善と体力テストの結果を活かし、家庭と連携した体育的活動の奨励	②体力テストの結果を活かし、体育の授業改善を行うとともに家庭でもできる体育的活動を周知する。また、毎週木曜日に長なわ朝会を実施して体力の向上につなげる。	4	未	4	3	体力調査では、男子62.5%、女子50%の項目で平均を上回った。どの学年も、ほぼ都の平均と同じレベルで、やや上回るかやや下回るという具合であった。この結果を基にそれぞれの学年で、体育の授業改善に生かすとともに、家庭でもできる運動の紹介などをしていく。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件 ・児童の生活の中で、自然に体力をつける機会が減ってきている現在、家庭でもできる運動などの紹介、情報共有は良いと思います。
	○心身ともに健康な生活を送る基礎の醸成	②③保健、給食、食育等、総合的な健康教育の推進	②③養護教諭の保健指導、栄養士の食育指導、PTA・OYJの動画配信、夢育支援ネットワーク等関係諸団体との連携により健康・安全に対する正しい知識と高い意識を育てる。	未	未	4	－	養護教諭による保健指導は、保健室内の密集を防ぐため、校医と連携した歯磨き指導等を実施。第1回のご指摘どおり、取組みに対する成果の評価指標が、適切ではないと考える。◆児童アンケート：健康な生活に気を付けている児童（84.4%が肯定的評価）、体力向上に気を付けている児童（77．1%が肯定的評価）	妥当：18件、妥当ではない：0件、無回答：6件 ・否定的評価への対応についても検討してほしい。
コミュニティ・スクールの運営	○キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進	①三鷹地域学習に関する小・中一貫教育カリキュラムの改訂と夢育単元計画のさらなる見直しと実践	①JAむさし東京と連携した農園活動や地域人財と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育をさらに充実させる。	未	未	未（4）	未（4）	実施率は、進行中の学習もある（12/18現在）ので、今後実施率100%になる予定。児童の満足度（肯定的評価）は、単元を終了した学年の学習の振り返りを読むと、ほぼ全員が満足感を得ている内容の記述があり、自らの考えを形にできた成果が表れていると考える。	妥当：20件、妥当ではない：0件、無回答：4件
	○児童会・生徒会交流と児童会活動の連携強化、児童の学校や地域に対する所属感の醸成	①学園行事と児童会の動きを連携、児童の意見を基に進行する会の運営	①開校80年目の行事について、児童の意見を取り上げていくとともに、80周年に向けて、企画を計画していく。その他、学園や三鷹市の熟議に関わることなども取り上げる。	未	未	4	4	児童会は中央委員会が新しく立ち上げられ、子どもたちによって「あいさつ・整頓・返事」の徹底が呼びかけられている。一方、6年生による80年目を祝う取組みによって児童の企画・デザインによるTシャツの販売や全校を巻き込んだ80年祭が行われた。今後、児童会での80周年に向けた取り組みへ引き継いでいく必要がある。	妥当：19件、妥当ではない：1件、無回答：4件 ・取組状況とともに、児童会児童の満足度の肯定的評価の結果に対する評価も必要と思います。
学校の働き方改革	○校内組織における「適材適所」の配置と複数配置による学校組織の安定化	・時間外勤務時間の可視化によるタイムマネジメントへの意識向上	・定期的に時間外勤務時間の提示を行うとともに「My定時退庁日」を各自設定させ、自己申告時に確認する。	未	1	未（2）	1	取組の回数は11月末で5回。今後すべての月で行うと9回とはなるが、趣旨を考えると評価は「2」と考える。また、超過勤務の時間の平均は40時間を下回る月も出てきているが、45時間を超える教員が、若手教員を中心に毎月10名程度おり、引き続き教員の心身のケアや可能な限りの校務整理を行っていく必要がある。	妥当：20件、妥当ではない：0件、無回答：4件 ・厚労省の毎月勤労統計調査によると、全産業の時間外労働時間の平均は月10時間程度で、民間企業の調査でも月20時間程度とされている。　・厚労省調査の4倍以上の時間外労働が恒常的に発生している事態は、魅力的な職場作りや優秀な人材確保の観点からも大きな課題だと考えられる。　・4小だけ、連雀学園だけに限っ
	○教職員の心身の健康保持	・教職員のメンタル・ケアのための面談実施	・全教職員を対象に「1on1ミーティング」を実施し、心身のケアを行う。	4	未	4	3	実施回数を再設定しての実施率は90%以上であり、教職員による評価は、おおむね肯定的であった。特に、若手教員は話す機会があってよかったようである。教員のメンタルケアは概ねできていそうであること、若手教員を中心に一定のニーズはあることから、希望制などの方法に移行していくなどの改善をしていく。	妥当：19件、妥当ではない：1件、無回答：4件 ・「1on1ミーティング」の取り組みは、全教職員を対象に行うからこそ意義があると思われる。　・民間企業に勤務しているが、同様の面談は年に2回設定されており、若手からは業務上の相談、中堅・ベテランからは同様の相談の他、その社員から見た若手や管理職の状況確認・評価などにも役立てている。　・実施自体が業務負荷